

子ども会未来夢

高崎市子ども会育成団体連絡協議会

(こどもかいみらいむ)

高崎市高松町35番地 (郵便番号: 370-8501)

高崎市教育委員会事務局青少年課内 電話: 027-321-1297



↑ 第53回高崎市子ども会「上毛かるた大会」で優勝・準優勝に輝いたみなさん

平成24年度 行事予定 (案)

4/5	定期総会	高崎市役所	7/下旬	球技審判員監督者会議	高崎市役所
4/28	写生大会	三ッ寺公園・他市内	8/18・19	球技大会	和田橋運動広場
5/6	球技大会審判講習会	青年センター	10/13	かるた審判講習会	青年センター
6/3	校区代表者研修会	青年センター	1/月上旬	かるた市大会審判打合せ	高崎市役所
6/24	インリーダー養成講習会	観音山キャンプパークジョイナス		1/20	
7/2~8	写生大会展示会	イオンモール高崎	2/3	上毛かるた県競技大会	群馬武道館
7/7	市育連表彰式 写生大会表彰式	市民活動センター	2/中旬	安全共済会説明会	会場未定

※ この予定は、変更になる場合があります。※

市上毛かるた大会

日本一規模大きな上毛かるた大会を開催・一四四コートで熱戦展開

平成二十四年一月二三日(日)高崎市浜川体育館において高崎市子ども会上毛かるた大会を開催しました。高崎市内の五六小学校区の参加で、小学校低学年(一・二学年)・中学年(三・四学年)・高学年(五・六学年)の各ブロックの個人戦・団体戦ごとに二四の対戦コートを用意しての大会となりました。

一次リーグを五校区リーグ・五回戦方式で行いました。二次リーグは、各一次リーグ一位の二校区を二つのリーグに分け六校区リーグ五回戦を行いました。決勝戦では二次リーグ一位同士の優勝決定戦と二位同士の三・四位決定戦を行いました。

中学生の部は個人戦・団体戦ともに五校区の参加により総当たりのリーグ戦を午後から実施しました。大会にあたり前日準備からご協力をいただいた校区役員さんや当日競技審判に当たっていただいた

校区審判員の皆さん、市子育連審判部の皆さん、参加児童のためにご足労をいただいた校区監督をはじめ多くの保護者や役員の方々に感謝申し上げます。

また、各小学校の校長先生には選手たちの激励に駆けつけていただきありがとうございます。

なお、小学校低学年の部を除く、各ブロックの優勝・準優勝の個人・団体の皆さんには二月一日(土)に群馬武道館で開催された県競技大会に出場していただきました。

大会結果は以下のとおりです。団体の名前掲載順は校区からの報告の順です。

- ▽団体戦一・二年の部
 - 優勝 下室田子ども会(下室田小)
 - 有坂 亜純 松本 夢々
 - 柴山 寛生 森戸 太毅
 - 準優勝 一五区子ども会(箕輪小)
 - 篠原 奈帆 加藤 丈暉
 - 小池 由伸
 - 第三位 中泉子ども会(桜山小)
 - 新井 帆葉 横山 敦
 - 横山 莉々香 東野 可暖
 - 第四位 筑縄子ども会(六郷小)
 - 田野 莉々果 高橋 由佳子
 - 掛川 彩華 掛川 祐華

- ▽団体戦三・四年の部
 - 優勝 中泉子ども会(桜山小)
 - 西田 梨瑚 白須 ななみ
 - 南雲 丈 住谷 真悠
 - 準優勝 金古六区の一子ども会(金古南小)
 - 石上 敬祐 福田 響
 - 松井 大和
 - 第三位 大八木子ども会(中川小)
 - 高橋 空 森田 豊
 - 川上 滉太
 - 第四位 井出子ども会(上郊小)
 - 斉藤 妃代里 小谷野 桂太
 - 斉藤 琴映 桜沢 日向

- ▽団体戦五・六年の部
 - 優勝 飯塚第二子ども会(北小)
 - 重政 光太郎 河内 達郎
 - 深堀 倫世 渡邊 千尋
 - 準優勝 王塚子ども会(金古南小)
 - 大嶋 紀穂 片平 美月
 - 富澤 美唯奈
 - 第三位 下中居・中居四丁目子ども会(中居小)
 - 大谷 文也 松島 七海
 - 佐藤 理子 佐藤 冴香
 - 第四位 八千代四丁目子ども会(乗附小)
 - 佐藤 脩平 小川 峻平
 - 小坂橋 宏斗 今田 星紀

- ▽団体戦中学生の部
 - 優勝 菅谷子ども会(桜山小)
 - 藤森 美穂 須田 満奈美
 - 保科 優音 山田 衣織
 - 準優勝 王塚子ども会(金古南小)
 - 齋藤 菜生 田畑 愛奈
 - 久保 万由子
 - 第三位 新町第八区子ども会(新町第一小)
 - 小島 大輝 関根 舞佳
 - 関根 元輝 亀井 郁実

- ▽個人戦一・二年の部
 - 優勝 阿久沢 果歩 上新保子ども会(新高尾小)
 - 準優勝 上野 将理 倉渕町第一区子ども会(倉渕小)
 - 第三位 谷 花純 大橋子ども会(西小)
 - 第四位 中村 美海 下佐野第一子ども会(佐野小)
 - ▽個人戦三・四年の部
 - 優勝 島田 将仁 井出子ども会(上郊小)
 - 準優勝 阿久沢 有希 上新保子ども会(新高尾小)
 - 第三位 福田 伊吹 菅谷子ども会(桜山小)
 - 第四位 関 裕南 倉渕町第五区子ども会(倉渕小)

- ▽個人戦五・六年の部
 - 優勝 南雲 芽生 菅谷子ども会(桜山小)
 - 準優勝 吉田 優奈 上小島第二子ども会(六郷小)
 - 第三位 東野 将人 足門九区子ども会(金古南小)
 - 第四位 塚越 真吾 末広G子ども会(北小)

- ▽個人戦中学生の部
 - 優勝 成谷 奈菜 福島子ども会(桜山小)
 - 準優勝 千木良 香琳 新町第八区子ども会(新町第一小)
 - 第三位 木村 里穂 木暮子ども会(馬庭小)



→かるた大会対戦の様子

上毛かるた県大会

県大会でも熱戦を展開

低学年(三・四年)の部で

入賞を果たす

平成二十四年二月一日(土・祝日)に群馬県総合スポーツセンター群馬武道館において第六五回上毛かるた県競技大会が開催されました。

大会は、小学校低学年(三・四年)、小学校高学年(五・六年)中学校の三部門で団体戦・個人戦で熱戦を展開しました。高崎市代表として出場した選手は、それぞれの部門とも健闘して頂きました。表彰式後に上位入賞の選手の集合写真を撮りました(写真左)。



高崎市選手で各部門の上位入賞をされた方々は以下のとおりです。

▽小学校低学年の部 個人戦

第四位 島田 将仁 井出子ども会(上郊小四年)

第六位 阿久沢 有希 上新保子ども会(新高尾小四年)

▽小学校低学年の部 団体戦

第六位 中泉子ども会(桜山小四年)

西田 梨瑚 白須 ななみ

南雲 丈 住谷 真悠

入賞された選手の皆さんおめでとうございます。

高崎市選手で各部門の上位入賞をされた方々は以下のとおりです。



→県大会の様子

子ども会活動体験作文を 紹介します。

昨年の体験作文に応募いただいた中からかるた大会に関連した作品を掲載します。

心に残るかるた大会

新高尾小六年 今井 和

子ども会の行事は、はい品回収、写生大会、夏祭り、ラジオ体操、地区の運動会、かるた大会です。

その中で私が一番好きな行事は、かるた大会です。かるた大会は、練習から始まります。週に二日あります。練習で強かった人は、選手に選ばれます。選手の人だけの練習になると、人数が足りないのです。お父さんやお母さんを相手に練習をします。私のいる中尾団地は、けっこうみんな強いので、お父さんお母さんも本気になってがんばります。大人チームが勝ったり、子どもチームが勝ったりします。大人チームに負けるととても悔しいです。練習の最後は、必ずおかしをくれるので、楽しみの一つです。

かるた大会の当日は自分の番がくるまでは他の学年を応援したり、

本を読んだり、カイロで手を温めたりしています。

私は、個人より団体の方が好きです。理由は、個人だと集中はできないけれど仲間がいらないからです。団体だったら、試合中にかかるの札を取り忘れてしまっても、仲間が取ってくれてミスをカバーしてくれたりもします。対戦相手がお手つきをすると、みんなでラッキーと思います。「おかめきけ」、「すもの」、「つ」がそろった時は最高にうれしいです。去年、私はBチームだったので途中で負けてしまいました。とてもくやしかったです。今年も六年生で最後なのでがんばって選手になって、ゆう勝したいと思っています。

大好きな上毛かるた

中川小四年 赤沼 響

ぼくが、かるたを始めたのはほいく園のころでした。兄の上毛かるたの練習についていって、読みふだを覚えていきました。そして、自分で絵ふだを覚えていきました。

そして、一年生になって子ども会の上毛かるたの練習に行くように

なりました。

ぼくは、練習でだんたいせんをすることにしました。その理由は、みんなで協力してできるからです。もう一つは一人で勝つより三倍うれしいからです。

それからぼくは、大会に出ました。大会の楽しい所は、予せん、じゅん決勝まできたらさいごまで勝ちのこつていくことです。トロフィーとしようじょうをもらうことがうれしいです。

ぼくは、一年生の時はゆう勝しました。そして、市の大会に出られました。今までは勝っていたのに、とつぜん負けてしまいました。とてもくやしかったです。二年の時は、ぎやくてんして勝って、三位になりました。三年の時は、二位になりました。

ぼくは、それでもうれしかったです。それはトロフィーが全部そろったからです。

これからも、ぼくはずっとだんたいせんががんばっていきたいです。そして、もっともっと練習して強くなって、もう一度市の大会に出たいです。

写生大会を開催

今年の写生大会はメイン会場での開会行事と写生大会を実施、大勢の参加により関連行事を開催しました。

第五回写生大会が平成二三年四月二十九日(金)から五月にかけて観音山ファミリパークをメイン会場として開催されました。四月二十九日に観音山ファミリパークでの開会式及び写生大会は快晴のもと晴れやかに行われ、メイン会場はもとより各校区等で独自に写生大会を開催していただき、各地域で工夫を凝らして作品づくりに協力していただきました。

その結果、今年度は五二校区からたくさん作品が出品されました。

また、各校区において、特賞・金賞・銀賞・銅賞を選定いただきました。

市子育連では、各校区から選出された特賞作品を集め各賞の選定を行いました。どの作品も力作揃いで甲乙つけがたく審査員の悩まれる姿が印象的でした。

展示会は七月五日から七月十日までイオンモール高崎内イオンホールにて特賞・金賞・銀賞作品の展示を行う予定でしたが、東日本大震災に伴う電力使用制限により中止いたしました。表彰式も七月九日に箕郷文化会館において開催の予定でしたが展

示会と同様の理由により中止となりました。各賞に入選された皆さんは、ご自分の作品が展示され、また表彰式にて表彰されることを望んでいたと思いますがご容赦ください。

上位作品写真を掲載しましたが、色彩を伝えられないのが残念です。以下各賞を受賞された児童名を紹介いたします。(特賞のみ記載)

- ▽市長賞 高橋 厚(北小六年)
- ▽議長賞 金田 彩美(大類小六年)
- ▽教育長賞 窪 祐姫乃(東部小五年)

▽区長会長賞

原 慶乃(長野小四年)

東野 将人(金古南小六年)

瀬古 颯太(矢中小六年)

原 響季(豊岡小六年)

小島 彩香(南陽台小六年)

▽小学校長会長賞

栗野 花葵(倉賀野小五年)

森川 かれん(箕輪小五年)

吉田 有希(北部小六年)

塚越 愛梨(倉渕小三年)

河野 菜奈(六郷小六年)

▽PTA連合会長賞 関澤 紀香(佐野小六年)

奥澤 このみ(新町第二小二年)

堀越 美月(吉井小三年)

▽社観光協合理事長賞

太田 葉月(南八幡小六年)

福田 飛鳥(箕郷東小三年)

三ツ澤 歩美(桜山小三年)

▽社会福祉協議会長賞

櫻庭 大騎(浜尻小六年)

深沢 未優(下室田小五年)

吉田 滯志(岩平小三年)

▽ぺんてる社長賞

貫井 利菜(南小六年)

佐藤 凜(東小五年)

小笠原 舞美(西小六年)

大塚 ほのか(中川小六年)

不破 亜莉珠(中居小六年)

村田 遼河(金古小五年)

三浦 果音(里見小三年)

長澤 萌夢(久留馬小四年)

新野 愛佳(入野小六年)

▽文具事務用品組合長賞

田中 大海(城南小六年)

須藤 志歩(城東小六年)

深沢 友理(新高尾小六年)

町田 美和(八幡小六年)

柴田 将汰(京ヶ島小六年)

江原 貴史(滝川小五年)

伊藤 叶華(乗附小二年)

八木 遼太(国府小三年)

大河原 葵稀(中室田小六年)

長壁 花苗(上室田小六年)

▽市子育連会長賞

大河原 史帆(片岡小六年)

松本 亜実(寺尾小二年)

村田 龍弥(岩鼻小六年)

松井 望愛(西部小六年)

島方 結衣(車郷小一年)

小川 莉乃(堤ヶ岡小四年)

天田 菜々恵(上郊小六年)

大澤 達矢(下里見小四年)

前田 純希(吉井西小三年)

齋藤 建太郎(多胡小六年)



市長賞

→市長賞の作品



議長賞

→議長賞の作品



教育長賞

→教育長賞の作品

インリーダー養成講習会

市子育連では、インリーダー養成講習会をとおして子ども会のリーダーを養成することを目的とし講習会を倉淵町のわらび平森林公園キャンプ場において開催しました。

前期講習（六月二六日）では、午前に受付・開会行事とオリエンテーション後に、レクリエーション講習で参加者の名前を覚え、仲良く行動できるための活動を行い、続いてKYT（危険予知トレーニング）講習では子ども会行事を安全に行うために必要なことを学びました。昼食には自分で持参したお弁当を食べました。午後は、後期日程説明で後期講習の内容や持ち物などの説明を聞いた後、班別会議で班内の係分担と後期講習で分担して持参する調理用具の担当を決めました。その後の係別会議では、班長副班長・食事係・生活保健係・レク学習係に分かれ、各係の役割と仕事内容を担当役員から指導を聞き、その後再度班別に集合し各係から係別会議の内容を班員に伝えました。



→高倉山山頂にて全員で

後期講習（七月一六・一七日）では、開会行事の後フィールドワークについての危険防止講話をおこなった後、各人で準備と身支度を整え高倉山にてフィールドワーク（軽登山）を行い、下山後は班別昼食で持参したお弁当を食べました。

午後は、最初にKYT実習で前期講習をさらに深めました。その後は班別会議で夕食のカレーライスを作り、班員同士で話し合い、飯ごう炊飯とカレーづくりに挑戦しました。慣れない手つきで調理をする子どももいましたが、出来上がった班から順に夕食をとりました。同じ材料を使い同じ条件で調理したのですが、

各班で見た目も味もそれぞれ違っていて、カレーライスが出来上がりました。夕食後あと片付けが済んだ班から、自由時間をとりました。

少し暗くなるまで時間を待ってキャンプファイヤーを行い楽しい時間を過ごしました。夜は、班ごとにバンガローにて、汗ふきや着替えを行った後に就寝時間ですが、友達になった班員と話をしている寝付けない子どももいたようです。

翌日は、五時半に起床・洗面をすませ朝のつどいとラジオ体操を行った後、キャンプ場内を班別で散策し、朝のすがすがしい時を過ごしました。朝食も飯ごう炊飯とみそ汁で作りました。その後、自分たちで使った調理道具や食器を後片付けして返却しました。そして今度は自分たちの荷物を整理しまとめて搬出し、一晩宿泊したバンガローを清掃後、レクリエーションは、ドッジボールを行いました。

午後は、この講習会の感想を書き、一時半から修了書授与及び閉会行事を行い解散となりました。参加した子どもたちは、貴重な体験をした喜びと達成感を胸に校区役員さんの車で家路につきました。



→飯ごう炊飯の様子

子ども会活動体験作文を紹介します。

昨年の体験作文に応募いただいた中からインリーダー養成講習会に関連した作品を掲載します。

インリーダー講習会に参加して

中居小六年 小林 瑞季

私は、今年初めてこの講習会に参加しました。同じ子ども会でも参加する人がたくさんいたので心強かったです。この講習会ではちがう学校の子もたくさん参加しているのでも、誰とも仲良くし、協力し合う事が

目的です。講習会には前期と後期があり、前期ですでに班分けしてあった八人で係決めをしました。私はレク係になりました。その後レク係の人と係別会議をして、私はキャンプファイヤーで火の神の一行を呼ぶ、ヤンホー係になりました。その後班に戻って、班の人にキャンプファイヤーの注意事項を伝えました。そしていよいよ後期は、わらび平森林公園キャンプ場でのキャンプです。キャンプはとても楽しかったです。理由は三つあります。

一つ目は高倉山という山を登ったことです。最初はとてもゆるやかでした。でも、だんだん急な坂になっていてとてもすべりやすく、登るのが大変でした。休けいもしながらやっと頂上に着きました。頂上はとても景色がよく、雲がすぐ近くを流れ、周りの山がとてもよく見えました。みんなで景色を見ると指導者の人が写真を撮ってくれました。その後今度は山を下りました。下りもとても急で誰かが転んだらみんなの手を貸し助け合いながら下りました。とても楽しかったです。二つ目は食事作りです。食事は全て自分で作り、特に難しかったの

は火の調節です。家のコンロとは違
い、まきの入れ方で強火、弱火が変
わるのでとても難しかったです。私
の班では飯ごうすい飯で炊いた2
回とも真っ黒こげになってしまい
ましたが、お焦げだと思ってたくさ
んおかわりをしました。でもみんな
で協力して作ったカレーやみそ汁
は、最高においしくてみんなで競争
しながら何回もおかわりしました。
とてもおいしかったです。

三つ目は夜ねるときです。夜は少
し寒いので、ねぶくろが温かく、と
ても気持ち良かったです。友達のと
なりでねられるなんてあまりない
のでとてもうれしかったです。それ
とねぶくろは初めてだったので、あ
んなにうすいねぶくろが思ったよ
り温かいのでビックリしました。そ
れでもバンガローの中は真っ暗で
物静かで少しこわかったです。でも
つかれていたのでも、とてもよく眠れ
ました。

このキャンプでは、ほかの学校の
子ども仲間もなれたし、たくさん
思い出できました。私はこのキャ
ンプを通して協力し合う事を学び
ました。インリーダー講習会に参加
してよかったですと思いました。

校区代表者研修会

この講習会は校区の役員さん
に子ども会の意義などを周知
し、今後の育成会の運営に資
することを目的として開催し
ました。

平成二三年六月五日(日)高崎青
年センターにおいて校区代表者研
修会を行いました。

今年度もこの研修会は、高崎市内
の小学校区の役員と、地域の単位育
成会の役員を対象に実施されまし
た。

研修の第一部は「子ども会とは」
というテーマで金井理事が講話を
行い、その後「子ども会・その安全
と冒険」のビデオを視聴しました。
子どもの育成は、いろいろな事を
体験させ経験をさせることが重要
である。あらゆる状況に備え子ども
が安心して活動に参加できる様に
安全に対する配慮が必要であるこ
と、役員は、子どもに信頼されるよ
うに努力していかなければならな
いことを学びました。

第二部は、「子どもの事故に対応
するために」というテーマで高崎市

広域消防局高崎東消防署救急二係
の皆さんから救急救命についてと
AED(自動体外式除細動器)の使
い方を学びました。その後、KYT
(きけんよちトレーニングの略)講
習を丸山書記が行いました。KYT
は産業界でゼロ災害を目標に具体
的な事例に基づきすすめられてい
ます。子ども会活動でも十分活用で
きる要素があるということです。

今後も、子ども会行事を支える育
成会役員にとって、子どもにいろい
ろな活動の経験の機会と共に、安全
第一で活動に取り組んでいきまし
よう。



→講演を聴きメモする受講者

優秀賞を二名が受賞

昨年群馬県子ども会育成団体
連絡協議会主催の第一八回子ど
も会活動体験作文コンクールが
実施され、高崎市から応募した、
森田晃浩さん(笠日高子ども会)
と岩田真由さん(正観寺子ども
会)の体験作文が優秀賞を受賞
しました。受賞おめでとうござ
います。今後のご活躍を期待し
ております。

受賞した作文を紹介させてい
ただきます。

リーダーの力

新高尾小学校六年 森田晃浩

あの震災の日、多くの子供達が
津波で命を落とした。しかし、岩手
県釜石市では、市内の小中学生ほぼ
全員が津波の難を逃れることがで
きた。それは、八年間にわたる、あ
る先生の防災教育のおかげである
らしい。新聞などでは『釜石の奇跡』
と言われているが、奇跡ではなく防
災教育の成果である。

ぼくは、先日市子育連のリーダー

研修に参加した。ここでは、KYT
を体験した。KYTは、危険予知ト
レーニングの略で、たとえば山登り
の絵を見て、どのような危険がある
かを考えて、発表し合うというもの
だ。それを行って山登りに出発した。
山には、絵と同じような所もあり、
上から石が落ちてきたり、すべりや
すいところがあったりした。引率の
役員の方は、このような危険を事前
に予測し、ぼくたちを安全に引率し
てくれた。

飯ごう炊飯では、薪を使ってご飯
をたいた。ぼくは、一度経験があっ
たのでそれほど苦労はしなかった。
キャンプファイヤーのレクでは、リ
ーダーの人が大変苦労をしていた。
ぼくが、もし、リーダーだったら、
真っ暗な中でレクをやるのは、かな
りむずかしいと思う。言葉でわかり
やすい指示を出すにはたいへんな
技術を身に付ける必要がある。

ぼくは、今年初めて子ども会のソ
フトボールのキャプテンになった。
けれども、ぼくには、知識も技術も
ない。毎年一回戦で負けていたので、
今年こそはと思ったが、だめだった。
リーダーとしてのぼくの力のなさ
を痛感した。

ぼくの将来の夢は、学校の先生である。先生は多くの体験や経験、知識が必要である。そして、よきリーダーでなければならぬ。釜石の先生方は、子供達の命を守るためどれほどの努力をしたのだろうか。その成果が、奇跡を産んだのだ。KYTや飯ごう炊飯やソフトボールの経験を通してぼくは、リーダーとは、みんなをまとめるだけではなく、豊富な知識と経験、それを伝える力と子供達の未来を明るくのものにしていくと思う思いやりの気持ちが必要である。これからぼくは、良い先生になるためにいっしょうけんめいがんばりたい。

子ども会活動を通じて

中川小学校五年 岩田真由

私は、子ども会活動の中で、ポトボールに参加しています。一年生の時からやっていますが、四年生の時のことの話です。

また、五月から練習が始まりました。練習はいつも正観寺公園です。私のお父さんがかんとくです。私は、友達とポトボールをするのが楽しくて、毎回楽しく練習をしていました。覚えることが多くて、大変な所もありました。でも、友達同士で教えあったりするうちに、あまりしゃべらなかつた友達とも、しゃべれるようになりました。すごくうれしかったです。友達のお母さんやお父さんたちと練習試合をすることもあり、大人の方も仲よくなれたりもしました。

いろいろな練習があつて、いよいよレギュラーメンバーを決める時が来ました。私は、メンバーに入っていました。うれしくて、ほっとしました。そして、地区でぜったい優勝すると決めました。

それからも大変な練習がありました。でも一生涯けんめいがんばりました。

した。

そしてついに、大会の日が来ました。私はとてもきんちようしていました。みんなで手に「ゼッタイ勝つ」と書いて、試合をしました。一回戦は、きんちようして、ちよつと大変だったけど、勝ちました。二回戦はいつもと同じに動いて、けっこう差をつけて勝てました。二勝したので次は、決勝戦にいきます。その相手は、バスケをしている人が多い強いチームでした。でも、全力で行けば勝ると信じて、がんばろうと思つて試合にのぞみました。試合が始まつて、すごく大きい声で、大人の方や友達が応援してくれました。タイムをとつた時、かんとくは、アドバイスをくれて、友達は、うちわであおいでくれたり、大人の方は、つめたいタオルやのみ物をくれました。私には、いろいろなことをしてくる人に感しやしなうがらプレーでお返しをしようと思つてがんばりました。でも、ちよつとの差で負けてしまいました。負けた時メンバー全員が泣きました。そして、しんぱんや点つけ、オフィシャル、相手チームに、「ありがとうございしました。」とあいさつをして、最後に、

自分のチームに、一番大きい声で「ありがとうございしました。」と言いました。

私は、一位はとれなかつたけど、みんなで精いっぱいできたので悔いはないし、お世話になつた人に感しやしたいとおもいました。

私は、この時のポトボール大会を通じて、どんな時も自分のまわりには、支えてくれる人達がいて、いつも、その事に感しやでできる自分でありたいと思ひました。

今年度を振り返って

今年度は年度当初より「ちびっこすもう大会」の開催を中止しました。球技大会も実施予定していた当日が二日とも雨天のため中止となりました。球技審判講習会や各校区での予戦会などを開催し、当日に向けて準備をしていた選手役員の皆さんは「がっかりした」事でしょう。特に六年生の選手皆さんはおさらだつたのではと推察しております。中学生になつても部活動や勉強を一所懸命に頑張つてくださいます。皆さんの更なる活躍を期待しています。

写生大会の展示会と表彰式が中止になつてしまつたことも残念でなりません。自分の作品が展示されることや表彰式での受賞を待つていた皆様には本当に申し訳ありませんでした。

今年度は東日本大震災と原発事故・夏場の集中豪雨被害・冬の豪雪被害などがあり、それぞれを通して地域や人々の「絆」を考えさせられる年でした。市子育連も会員相互や地域での絆を深められる様にしたいと考えております。

作文コンクール表彰式



→ 作文を発表する晃浩さん

→ 作文を発表する真由さん



かえりみて

第七代市子育連会長 大塚光男

「会長さんアイスをどうぞ。それとおつりです。」と言って私に百円のアイスを手渡す子ども。あれっと思

い子ども達のアイスを見ると、子どもが口にしてるのは三十円のアイスでした。そのアイスクリームが私の咽元を過ぎる前に、胸が熱くなり目に涙がうかび、それを隠すことが精一杯でした。球技大会の練習に來ていた子どもが二十人、一人五十円のアイス二十個でと思い、千円を渡したのでした。これが私の人生を変えた「アイスクリーム事件」です。こんな優しく思いやりのある可愛い子がいる。それから三十有余年、子ども会育成会を離れることができず、それどころかドブプリと首まで漬かってしまいました。校区会長の頃、各町内会で行っていた「盆踊り」を校区全体で実施しようと思ひ、区長会をはじめ各種団体長に二年の歳月をかけ根回しを行い、第一回盆踊りを実施、盛大に行う事ができました。

学校五日制実施の時も、田植、稲刈り、しめ縄作りと、一年間通しの行事を企画し、PTAと学校に協力をしてもらい「週五日制を考える会」を作り、子どもの育成にがんばって来ました。

市子育連においても、市町村合併の時は、会議、会議の毎日でした。従来の子育連の行事が別々だったこともあり、なかなか意見が合わず大変な思いもありました。最近では少子化の問題、隣近所の付き合いもうすれて、役員を受ける人も少なく子ども会育成会が休会している校区も出てきました。皆さん是非一考をお願いします。

育成会は、長い役員生活の中で最大の財産を残してくれました。それは多くの「友人知人」ができた事です。私は「子どもが好きだから」今後も近所の「おっかないオジサン」として愛情をもって接していきたいと思ひます。子どもが帰ったあとからは「まあいい大きな、お月様」をみながら。

子ども達、仲間達、子育連、バンザイだ！

「子ども会活動体験」作文募集中

高崎市子育連では、子ども会活動体験作文を年間通じて募集しています。

子ども会活動は、異年齢の仲間集団の中で豊かな活動体験を通して、子どもたちの成長を促すことを目的として活動を展開しています。今後の子ども会活動をさらに充実発展させていくために、子ども自身に子ども会での体験を作文にさせていただいて、子どもの率直な「意見や感想」を応募していただくことにより、子ども会活動を推奨する目的で実施をします。

作文内容は、「子ども会活動（育成会主催行事を含む）に参加」して、自分自身で体験したことや、感じた事などを作文にさせていただくものです。どんな内容でも子ども会（育成会）活動に関するものであれば大丈夫です。市販の原稿用紙2枚程度にまとめてください。

応募方法は、市子育連事務局（市青少年課内）へ提出してください。応募作品には作文の裏面に、作文の題名、子ども会名、氏名、学年、住所、電話番号を記載してください。

応募された作品は、市子育連広報紙等に掲載のほか子ども会活動啓発資料として使用させていただくことがあります。また、毎年8月末日までに応募いただいた作品の中から優良な作品については「群馬県子ども会育成団体連絡協議会の子ども会活動体験作文コンクール」に推薦いたします。

お子さんの書いた子ども会体験作文をどしどしご応募ください。応募お待ちしております。

編集後記

今年度は、広報紙を会員の皆さんに親しんで読んで頂けるように子どもが書いた行事の作文を「子ども会活動体験作文」で応募された作文（四六作文）の中から3人の作文を記事の間に掲載をさせていただきました。また、県子育連作文コンクールに入選した作文（二作文）も併せて掲載いたしました。作文を応募いただいた皆さんに感謝申し上げます。今後も募集と掲載を続けていきたいと思ひます。お読み頂いた「ご感想」や「ご意見」をお寄せ頂ければ幸いです。よろしくお願ひいたします。

- 発行責任者 会長 大塚 光男
- 編集担当者 書記 丸山 芳典
- 広報部会員 發地 恵子(本部)
- 森 昌子(本部)
- 小笠原 映子(西小)
- 仁川 雅彦(西部小)
- 仲澤 賢一(乗附小)
- 竹澤 郁郎(金古小)
- 高橋 樹里(新町第二小)
- 柴川 秀幸(宮沢小)
- 齊藤 路子(多胡小)
- 吉田 清子(入野小)